

# 藍? インディゴ?

最近のつばに藍色のものが並んでいて、シャツに藍色のものが沢山あると思いませんか? 鮮やかな藍色もきれいなのですが、金魚の刺繍があるものや花火の柄などがあつて、かわいいですよね。この藍色のシヤツは「インディゴ」という染料で染めていくのですが、先日スタツプの方と話していたら、最近入ったこのシヤツは本藍で染めていたんだよ」と紹介されました。はて? インディゴって藍染めじゃないの? 藍染めはインディゴ染めじゃないの? と素朴な疑問をもちました。そこで、今回は藍染めとインディゴ染めについて調べて見ました。これを読んだら、今持っている藍・インディゴ染めのシヤツが今以上にかわいく思えること間違いなしですよ!

## 藍染めの歴史

藍染めは人類最古の染料です。日本でも、飛鳥時代から始められて、室町時代には庶民にまで広がりました。日本の衣服を彩る最もポピュラーの色になつていき、江戸時代に入つて、木綿が庶民の

と、競はるようになりました。ドイツやフランスの華美な衣服にもインディゴが用いられていました。しかし明治の末にドイツより合成インディゴが輸入されるようになり、天然藍は衰退していき、最近になって世界的に天然藍の素晴らしさが見直され始めています。

## 天然藍とインディゴの違い

一般に天然藍(天然インディゴ)染めと呼ばれているものは、藍の色素を含む植物(図3)の色素を使って染めることを指します。(図1参照)一方、合成インディゴとは、石油からインディゴの分子構造を合成的に作った物を指します。(図2参照)天然藍に含まれるインディゴ以外の成分が藍色に深みを出したり、殺菌効果を出したりします。私は分かりませんが、藍に詳しい人は天然藍で染めたものと合成インディゴで染めたものでは、色の深みが全く違ってくるそうです。

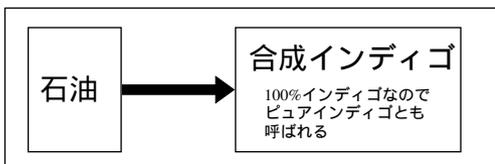


図2 合成インディゴ

- タデアイ (タデ科)  
学名: Polygonum tinctorium Lour.
- インド藍 (マメ科、コマツナギ属: Indigofera)  
・キアイ  
学名: Indigofera tinctoria L.  
(「インド藍」とはもともと、主にこれをさす)
- ・ナンバンコマツナギ  
学名: Indigofera suffruticosa Mill.  
(熱帯アメリカ原産。色素含量が多いので広まっている)
- 琉球藍 (キツネノマゴ科)  
学名: Strobilanthes cusia
- 大青 (ウオード、英woad 独waid 仏Pastel、アブラナ科)  
学名: Isatis tinctoria L.

図3 藍の色素を含む植物

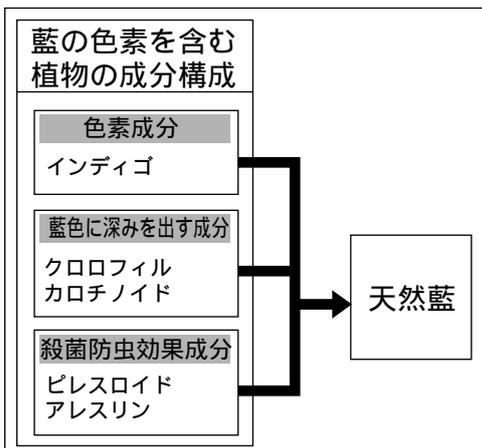


図1 天然藍

世界にはインディゴを生み出す種々の植物があり、その分類上の種類もさまざまです。図3に一覧にしてみました。そしてこれら植物が世界各地において古くから藍染めに用いられてきた。インディゴの植物も、イギリスは含有している。インドは結合した形に

## 藍の色素を持つ植物

の配糖体の一種で、無色の水溶性物質である。これが加水分解されてインドキシルに変化し、その2分子が空気酸化されることによって、青色のインディゴ色素を形成

PRIVATE

